

# 院内感染対策における 地域連携と医師の役割

馬場 尚志<sup>†</sup>第67回国立病院総合医学会  
(平成25年11月9日 於金沢)

IRYO Vol. 68 No. 10 (500-503) 2014

## 要旨

医療関連感染や薬剤耐性菌は、急性期・療養型を問わず、すべての医療施設で発生しているため、各施設での適切な対策が必要となる。しかし、感染制御を専門とする人材は限られており、以前より地域における支援体制整備の必要性が叫ばれていた。また、転院など患者移動により薬剤耐性菌が施設を越えて拡大した事例も数多く報告されており、この点からも地域全体での感染制御体制の充実が必要とされ、これまでもさまざまな形での地域支援ネットワークの構築が模索されてきた。

一方、感染制御体制における医師、すなわち Infection Control Doctor (ICD) の役割を考えると、適切な診断や抗菌薬適正使用のほか、各種医療デバイスの適応判断など、適切な患者診療に関する主治医への助言・指導が最も重要な使命といえよう。しかし、これには医療全般に関する幅広い知識とともに、感染症に関する詳細な知識が必要となり、必然的にさまざまな疑問や悩みを抱えることも多い。しかし、これまでこれらの情報を得る機会は、講義形式の会や専門領域の学会などが中心で、ICD 同士の情報交換・ディスカッションの機会はきわめて限定されていた。

このような状況の中、平成24年度の診療報酬改定において感染防止対策加算が新設されたことは画期的といえよう。この施策により、全国各地で加算1算定施設を中心とした実務的な地域ネットワークが一気に構築され、この枠組みの中でICD間の交流・情報交換も活性化することが期待される。

ただし、これらのネットワークに参加している施設は、介護施設や在宅ケア施設、診療所など医療施設全体からみると、まだまだ一部であることも認識すべきである。われわれICDも、診断・治療など適切な感染症診療の推進を図るため、既存の枠組みだけでなく、地域における講習会や診療支援を通じて、より積極的に地域への働きかけを行うことが求められよう。

キーワード インфекションコントロールドクター (ICD), 地域ネットワーク  
薬剤耐性菌

金沢医科大学 臨床感染症学 <sup>†</sup> 医師

(平成26年3月7日受付, 平成26年6月20日受理)

The Role of Infection Control Doctors in Regional Cooperation for Hospital Infection Control

Hisashi Baba, Department of Infectious Diseases, Kanazawa Medical University

(Received Mar. 7, 2014, Accepted June 20, 2014)

Key Words: infection control doctor, regional network, drug-resistant bacteria